

第5章 各駅周辺と商店街の街づくり

1. 目白駅周辺の街づくり

目白駅周辺は、教育・文化施設が集積するとともに良好な住宅地が広がっている一方で、目白駅舎や目白橋は老朽化し、駅前広場はなく歩行者が錯綜していました。

そこで、これらの課題に対応していくため、地元住民・東京都・JR・都市再生機構(旧・住都公団)などの関係者で組織した「目白駅前広場等に関する連絡協議会」で「目白駅周辺地区街づくり計画」を平成9年7月にとりまとめました。

この計画の整備内容としては、目白駅周辺地区を5つのゾーンに区分し整備していくことにしました。計画の内容とこれまでの整備状況は以下のとおりです。

図表2-5-1 ゾーン別整備内容と状況

ゾーン	整備内容と状況
駅前ゾーン	目白橋の架け替え(平成12年度完成) 駅前空間及び交通広場の整備(平成14年度完成 面積: 715.35m ²) 駐輪場の整備(平成13年度完成 台数: 800台) 目白通り横断地下通路の建設(平成14年度完成)
商業・サービスゾーン	目白通り(歩道)の整備(平成17年度~20年度) 統一感のある魅力的な商店街づくりの推進(中・長期計画)
都市型生活ゾーン	都市型住宅の建設(平成9年度完成 7階建て3棟 138戸) 郵趣会館(切手博物館等)の建設(平成7年度完成) 住宅地及び地区道路の整備(中・長期計画) ホテルメツツの建設(平成15年度完成)
文化・教育ゾーン	区道249号線の歩行者ネットワークの整備(平成13・15年度完成) 旧運輸研修所用地の売却・学習院生涯学習センターの設置(平成11年度完成) 学習院校内の整備(中・長期計画) 旧日本造船技術センター用地の売却・都市型住宅の建設(平成17年度完成)

街づくりに関する取り組みの経緯は次のとおりです。

- 平成3年9月 清算事業団資産処分審議会より目白用地の処分の促進について提言
- 平成5年4月 駅前広場の代替地約1,000m²を豊島区が取得
- 7月 住都公団が住宅建設計画を提示
- 平成6年3月 東京都交通局がバス回転広場施設用地約450m²を取得
- 平成7年2月 「目白駅前広場等に関する連絡協議会」発足
- 3月 住都公団が住宅建設用地約5,200m²を取得
- 12月 住都公団が未処分用地約2,000m²を取得
- 平成8年10月 第8回の協議会で「目白駅周辺地区街づくり計画案」を了承
- 第4建設事務所及びJRが目白橋架け替え等工事についての説明会開催
- 平成9年7月 「目白駅周辺地区街づくり計画」策定
- 平成10年10月 目白駅周辺地区地区計画都市計画決定(1.6ha)
- 平成15年度 道の名付親運動(F・Lライトの小路他を命名)
- 平成17年度 目白通り歩道拡幅と並木の復活
- 平成22年度 国土交通省「住まい・まちづくり担い手事業」実施
- 平成24年度 目白古道(一部交差点改良)整備完了
- 平成30年度 目白銀鈴の坂エレベータ設置工事 着手

2. 大塚駅周辺の街づくり

大塚駅周辺地区は、平成6年3月に駅南側の国鉄清算事業団用地が民間に売却されたことを契機に、駅周辺整備に向けての気運が高まってきました。

豊島区では、平成6年度に「大塚駅周辺整備方針」をとりまとめ、その後「大塚駅周辺整備マスタープラン」並びに「大塚駅自由通路新設基本計画」を策定しました

マスタープランの整備計画では、短期的及び中・長期的課題として次の項目を掲げています。

短期的課題 南北広場を結ぶ結節空間として自由通路を整備する。

鉄道の両側からアクセスできる位置に駐輪場を設置する。

補助81号線を整備し、池袋方面への歩行者ネットワークを実現する。

中・長期的課題 自由通路との一体感を保つよう大塚駅舎の改築を進める。

巣鴨方面への歩行者ネットワークを実現する。

駅東広場付近の再開発と広場改良及び地下駐車場の設置を進める。

駅西での面的整備を進め、西口改札の開設を図る。

その中で、南北自由通路は、都市交通システム整備事業(国庫補助)を活用して、大塚駅舎の改造(バリアフリー化)と一体的な整備を行い、平成22年3月に完成しました。

平成24年度からは、大塚駅南口の駅前街路・広場の再編整備及び地下駐輪場の整備に移行し、平成29年5月に南口の整備が完了しました。令和元年11月には北口駅前の整備工事が始まり、令和3年3月に完了しました。これまでの、街づくりに関する取り組みの経緯は次のとおりです。

平成5年5月 「大塚駅周辺を考える会」発足

平成6年3月 大塚駅南側の国鉄清算事業団用地を民間企業が取得

9月 「大塚駅周辺街づくりに関する協議会」発足

11月 「大塚駅周辺整備方針」策定

「大塚駅周辺整備に関する協議会」発足

平成7年3月 「大塚駅周辺整備土地利用基礎調査報告書」作成

9月 企業者によるホテル等の建設計画の地元説明会開催

10月 「大塚駅周辺整備調整会議」発足

平成8年3月 「大塚駅周辺整備マスタープラン」策定

平成9年3月 「大塚駅自由通路新設基本計画」策定

平成10年3月 「大塚駅周辺整備に関する分析調査」

平成11年3月 「大塚駅周辺地区道路整備方針策定調査」

平成12年3月 「駅街路1号線基本設計」実施

平成13年11月 JR東日本から「大塚駅南北自由通路新設設計画(案)」が出される

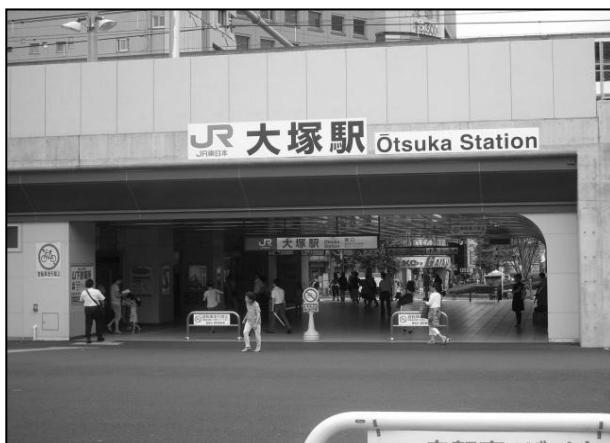
平成14年9月 「大塚駅周辺整備に関する調整会議」発足

平成15年6月 大塚駅南北自由通路整備及び駅改良に関する基本協定締結

平成15年10月 概略設計の施行に関する協定締結

- 平成17年8月 大塚駅南北自由通路整備及び駅改良に関する地元工事説明会開催
- 平成19年3月 「自転車駐車場整備基本計画調査」、「広場改良計画検討調査」
- 平成20年7月 大塚駅南北自由通路整備及び駅改良に関する工事施行変更協定締結
- 平成20年11月 大塚駅北口連絡会設置
- 平成21年3月 「大塚駅(北口)駅前広場整備計画調査」
- 平成21年10月 大塚駅南北自由通路開通
- 平成22年3月 大塚駅南北自由通路工事完了、「大塚駅周辺整備計画策定調査」
「大塚駅南口地下自転車駐車場の基本設計」
- 平成23年3月 「大塚駅周辺整備に伴う基本設計」
- 平成24年3月 「大塚駅周辺整備に伴う実施設計」
- 平成25年2月 大塚駅周辺整備に関する地元工事説明会開催
- 平成25年3月 「大塚駅南口自転車駐車場整備に伴う実施設計」
- 平成25年3月 大塚駅南口駅前街路整備工事完了
- 平成29年3月 大塚駅南口自転車駐車場整備工事完了
- 平成29年5月 大塚駅南口駅前広場整備工事完了
- 平成30年7月 大塚駅前周辺整備に伴う計画説明会
- 平成30年12月 大塚まちづくりシンポジウム
- 令和3年3月 大塚駅北口駅前広場整備工事完了
- 令和7年3月 区道31-1181歩道拡幅整備完了

図表 2-5-2 大塚駅自由通路（北口側より撮影）



図表 2-5-3 南口駅前広場



図表 2-5-4 北口駅前広場



3. 東長崎駅周辺の街づくり

東長崎駅周辺地区は、人が集まる地区の玄関にふさわしい街を形成するために、南口と北口を結ぶ自由通路、駅前広場、自転車駐車場等の施設を整備し、活気ある生活の拠点となる暮らしやすい街づくりをすすめることが課題となっています。

平成13年1月に、地元の方々による「西武池袋線東長崎駅にエスカレーター等の設置を求める推進協議会」が発足し、平成13年2月には東長崎駅のバリアフリー化を推進するため、区議会議長あての請願と区長あてに要望書が提出されました。

このような活動により、平成14年5月西武鉄道から「東長崎駅改良計画協議案」が提示されました。

豊島区と西武鉄道は、平成16年度に国土交通省が創設した「駅・まち一体改善事業」を活用し、自由通路・駅前広場の整備とともに駅舎の改良(バリアフリー化)を実施して、平成20年6月に完成しました。街づくりに関する取り組みは次のとおりです。

- 平成13年1月 「西武池袋線東長崎駅にエスカレーター等の設置を求める推進協議会」が発足
- 平成13年2月 区議会へ「西武池袋線東長崎駅にエスカレーター等の設置を求める請願」提出
区長へ「西武池袋線東長崎駅にエスカレーター等の設置を求める要望書」提出
- 平成13年3月 区議会で「西武池袋線東長崎駅にエスカレーター等の設置を求める請願」採択
区議会より西武鉄道へ「西武池袋線東長崎駅にエスカレーター等の設置を求める要望書」提出
- 平成13年5月 区長より西武鉄道へ「西武池袋線東長崎駅にエスカレーター等の設置を求める要望書」提出
- 平成14年5月 西武鉄道より区へ「東長崎駅改良計画協議案」が提示
- 平成16年3月 東長崎駅 駅・まち一体改善事業に関する基本協定の締結
- 平成16年3月 東長崎駅整備株式会社設立(第3セクター) 豊島区・西武鉄道共同出資
- 平成16年5月 東長崎駅南北自由通路新設及び駅前広場新設に伴う調査設計に関する協定の締結
- 平成17年5月 東長崎駅 駅・まち一体改善事業説明会の開催
- 平成17年8月 東長崎駅南北自由通路新設及び駅前広場新設に伴う工事の施行に関する協定の締結
- 平成17年9月 東長崎駅 駅・まち一体改善事業工事説明会の開催
- 平成20年3月 駅舎・自由通路が完成
- 平成20年6月 事業完了

東長崎駅施設概要

- ① 駅舎
 - ア. 改札 : 橋上駅舎
 - イ. ホーム : 島方式から相対方式
 - ウ. 駅構内 : エスカレーター(4台)
エレベーター(2台)
- ② 自由通路 : エスカレーター(2台)
エレベーター(2台)
- ③ 駅前広場 : 北口 約 600 m²
南口 約 400 m²

図表 2-5-5 東長崎駅完成写真 北口



南口



4. 椎名町駅周辺の街づくり

椎名町駅周辺では、放置自転車や狭い駅前広場、近接する開かずの踏切、老朽化しバリアフリー化していない駅舎など、多くの課題を有していました。平成6年には地元町会を中心に発足した「椎名町駅周辺を考える会」から様々な提案がなされ、環状6号線(山手通り)の拡幅整備事業による椎名橋の架け替え工事を契機に、この高架下の空間を活用した街づくりの機運が一層高まりました。

豊島区では、駅周辺の町会や商店会を加えて拡充した「椎名町駅周辺を考える会」との協議を進め、東長崎と同様の「駅・まち一体改善事業」を活用した、駅舎の改良(バリアフリー化)と自由通路・駅前広場の整備を実施するとともに、椎名橋高架下空間の利活用を進める総合的な整備事業を実施しています。

平成22年度に自転車駐車場整備、平成24年度に椎名町駅の改良と南北間の自由通路整備、椎名橋高架下空間での広場整備が完了しました。街づくりに関する経緯は次のとおりです。

- 平成6年5月 「椎名町駅周辺を考える会」が発足
区長へ「椎名町陸橋下有効利用の要望書」提出
- 平成6年6月 東京都へ「豊島区椎名町駅周辺地域の環境整備の促進に関する請願」提出
区議会へ「椎名町陸橋下有効利用の請願」提出
- 平成7年6月 東京都が「椎名町陸橋下有効利用の意向調査」実施
- 平成14年9月 環状6号線椎名町陸橋周辺説明会の開催
- 平成16年6月 区議会へ「西武池袋線・池袋9号踏切の地下自由通路早期実現に関する請願」提出
- 平成19年10月 「椎名町駅周辺整備に関するアンケート調査」の実施
- 平成20年2月 「椎名町駅周辺を考える会」にアンケート調査内容報告
- 平成20年12月 「椎名町駅周辺整備計画案地元説明会」開催
- 平成21年11月 椎名町駅南北自由通路新設及び駅前広場整備に係る工事に関する協定の締結
- 平成21年12月 椎名町駅・まち一体改善事業工事説明会の開催
- 平成23年3月 椎名橋下自転車駐車場整備完了
- 平成23年6月 椎名町橋上駅舎整備完了
- 平成24年12月 南北自由通路整備完了
- 平成25年3月 椎名橋高架下広場整備完了・事業完了

椎名町駅周辺の整備概要

- ① 駅舎
ア. 改札 : 橋上駅舎へ改築
イ. ホーム : 10両編成対応に延長
(緊急時対応)
ウ. 駅構内 : エスカレーター(2基)
エレベーター(2基)
- ② 自由通路
ア. 通路 : 幅5m
イ. エスカレーター(2基) エレベーター(2基)
- ③ 駅前広場、駐輪場 : 約3,500m²

図表2-5-6 椎名町駅完成写真(北口)



5. 池袋駅及び駅周辺整備(東西デッキ等)

池袋駅周辺では、鉄道施設で分断されたまちの東西を一体化し、歩行者の回遊性の向上やまちの広がりを創出するため、鉄道線路上空を活用する構想が数多く提案されてきました。平成3年度には、国、都、JR東日本、区の4者による「池袋地区複合空間基盤施設整備事業連絡協議会」を発足し、デッキ広場の整備に向けた関係者との協議を開始するとともに、地域の主催によるシンポジウムが開催されるなど、実現に向けて機運が高まりましたが、関係者の合意に至らずそれ以上の進展が見られませんでした。

現在の池袋駅は、JR東日本をはじめ4社8線の鉄道路線が乗り入れ、国内屈指の乗降客数を有する巨大ターミナルですが、乗換え利用が大半であり、駅の賑わいがまちの賑わいにつながっていません。また、増改築を繰り返してきた駅関連施設は、耐震性はもとより防火・避難などの災害時の安全性やバリアフリー対応、利用動線の交錯に伴う慢性的な混雑など多くの課題を抱えています。新宿、渋谷など沿線地域間の競争が激化していく状況下で、池袋駅及び駅周辺地域では、さらなる魅力の向上と地域の活性化が強く求められています。

平成19年度には鉄道事業者、近接大型商業事業者などから構成される「池袋駅及び駅周辺整備検討委員会」を設立し、都市機能の更新、歩行者空間の回遊性や安全性の向上などの都市再生を推進する方策について調査・検討を重ねたことにより、池袋駅周辺地域における長期的な整備構想を示す「池袋駅及び駅周辺整備計画(案)(平成20年度)」、東西デッキの整備に関する基本的な方向性を示す「池袋駅東西連絡通路(東西デッキ)整備基本構想(平成26年度)」を策定しました。

その後、平成27年7月に、池袋駅周辺地域が特定都市再生緊急整備地域に指定されたことを契機として、検討組織を「池袋駅周辺地域再生委員会」に改め、公民の連携・協働によるまちづくりの指針となる「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン(平成28年度)」及び、都市基盤に関する取組みを示す「池袋駅周辺地域基盤整備方針2018(平成30年度)」をとりまとめました。さらに区では、行政計画となる「池袋駅コア・ゾーンガイドライン2020(令和2年度)」並びに「池袋駅コア整備方針2024(令和6年度)」を策定しています。今後は、これらの計画に基づき公共と民間との協力のもと、一体的・効率的な都市再生事業を推進していきます。

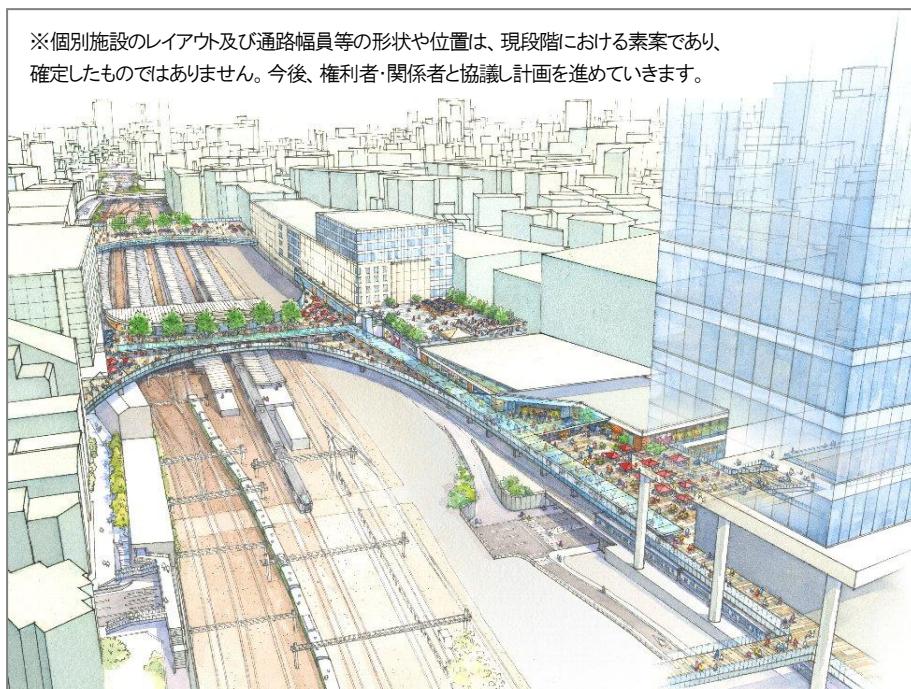
その先行事業として、周辺都市開発の動向に合わせた「東西連絡デッキ(びっくりガード上空デッキ)整備事業」、わかりやすく使いやすい池袋駅の実現を目指す「池袋駅地区案内サイン整備事業」を実施しています。

まちづくりに関する取り組みは次のとおりです。

- | | |
|----------|---|
| 昭和57年11月 | 豊島区基本計画に「東西デッキ構想」を明記、国鉄に協力依頼 |
| 昭和58年12月 | 豊島区議会で「東西デッキ設置の請願」を採択 |
| 昭和62年3月 | 日本都市計画学会が池袋副都心協議会の依頼を受け「池袋ルネッサンス構想」を提言 |
| 平成元年4月 | メトロポリタンプラザビル建設に伴う高架通路(ペデストリアンデッキ)設置について協定締結 |
| 平成2年度 | 「池袋地区複合空間基盤整備計画策定事業調査」を実施 |
| 平成2年7月 | 豊島区議会で「東西上空自由通路早期実現の請願」を採択 |
| 平成3年6月 | 「池袋地区複合空間基盤整備計画策定事業連絡協議会」を発足 |

平成 3 年 10 月	東京商工会議所豊島支部主催シンポジウム「池袋東西デッキ広場実現に向けて」を開催
平成 4 年 7 月	東京商工会議所豊島支部内に「池袋東西デッキ広場構想推進懇談会」を設立
平成 8 年 9 月	東京都議会に「池袋橋上駅東側通路の設置に関する請願」を提出
平成 19 年 7 月	「池袋駅及び駅周辺整備検討委員会」を発足
平成 21 年 3 月	「池袋駅及び駅周辺整備計画(案)」を策定
	豊島区主催公開シンポジウム「池袋から変わる!?駅とまちとの素敵なカンケイ」を開催
平成 23 年 4 月	「池袋駅地区バリアフリー基本構想」を策定
平成 26 年 4 月	「池袋駅地区バリアフリー基本構想【エリア拡大編】」を策定
平成 27 年 3 月	「池袋駅東西連絡通路(東西デッキ)整備基本構想」を策定
平成 27 年 7 月	「特定都市再生緊急整備地域」に指定
	「池袋駅周辺地域再生委員会」を発足
平成 28 年 7 月	「池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン」を策定
平成 28 年 10 月	「池袋駅周辺地下街等防災推進計画」を策定
平成 29 年 5 月	「池袋ターミナル案内サインガイドライン」を策定
平成 30 年 5 月	「池袋駅周辺地域基盤整備方針 2018」を策定
	「池袋ターミナル案内サインガイドライン」を改定
平成 31 年 4 月	「池袋駅地区バリアフリー基本構想」を改定
令和 2 年 2 月	「池袋駅コア・ゾーンガイドライン 2020」を策定
令和 2 年 3 月	東西連絡デッキ(びっくりガード上空デッキ)整備完了
令和 2 年 7 月	池袋駅案内誘導サイン共通化整備完了
令和 6 年 2 月	「池袋駅コア整備方針 2024」を策定

図表 2-5-7 東西デッキ整備のイメージ



6. 池袋駅西口駅前街区街づくり推進事業

池袋駅西口地区は老朽化した建物が多く、敷地も細分化され、まちのにぎわいや魅力を生み出しにくくなっています。昭和60年には再開発構想が地元から提案され、早急な整備の必要性が示されました。実現に至っていません。

平成23年3月に発生した東日本大震災では、池袋駅などの構内、池袋西口公園などに多くの帰宅困難者が発生するとともに、西口駅前街区の老朽化した多くの建物では、建物本体が破損するなどの被害を受けました。

また、平成25年3月の地下鉄副都心線と東急東横線の相互直通運転開始などから、都市間競争が激しさを増す中で、池袋駅西口地区の都市再生が強く求められています。平成27年7月には、地元・地権者等との協働により池袋駅西口地区のまちづくり基本構想案を策定し、当地区がめざすまちづくりのコンセプトとして「つながるまち」が示されました。

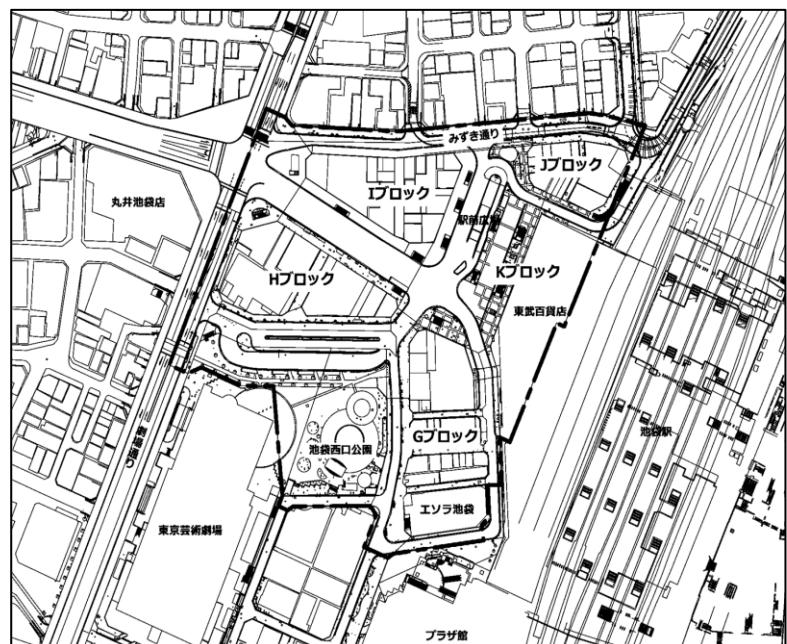
平成27年12月には池袋駅西口地区市街地再開発準備組合が設立され、再開発事業の事業化に向けた検討を進めてきました。令和4年10月には東京圏国家戦略特別区域の東京都都市再生プロジェクトに追加され、令和6年11月に都市計画決定されました。

(1) 対象地域

＜面 積＞

- | | |
|---------------|--------|
| ・宅地面積（鉄道用地含む） | 約1.6ha |
| ・道路面積 | 約2.7ha |
| ・公園面積 | 約0.3ha |
| 合計面積 | 約4.6ha |

図表2-5-8 池袋駅西口地区市街地再開発準備組合 事業地区



(2) 経緯

①まちづくり協議会

平成 19 年 12 月～平成 21 年 2 月	まちづくり勉強会 7 回開催
平成 21 年 7 月	池袋駅西口地区まちづくり協議会設立(加入率約 6 割) (当初の対象地域 : G・I・J ブロック)
平成 22 年 6 月	協議会対象地域拡大(H ブロック編入)
平成 22 年 8 月	まちづくりワークショップの開催
平成 23 年 2 月	まちづくり懇談会の開催
平成 23 年 6 月	まちづくり講演会の開催
平成 23 年 9 月	歩行者交通量・テナント状況調査等の実施
平成 24 年 3 月	まちづくり方針(素案)の作成
平成 25 年 3 月	まちづくり構想(素案)の作成
平成 25 年 11 月	まちづくり協力者(三菱地所㈱)の選定
平成 26 年 1 月	ブロック別まちづくり懇談会の開催
平成 26 年 9～12 月	池袋西口の未来をデザインする会の開催
平成 27 年 3 月	協議会対象地域拡大(K ブロック編入)
平成 27 年 7 月	まちづくり基本構想案(K ブロック含む)の作成
平成 27 年 12 月	まちづくり協議会の解散

②市街地再開発準備組合

平成 27 年 12 月	市街地再開発準備組合の設立
平成 28 年 4 月	事業協力者(三菱地所㈱・三菱地所レジデンス㈱)・総合コンサルの選定
平成 29 年 4 月	基本構想案の策定・事業区域の変更(エソラ街区編入)
令和 4 年 10 月	東京圏国家戦略特別区域の東京都都市再生プロジェクトに追加
令和 6 年 11 月	都市計画決定

(3) 今後の予定

市街地再開発準備組合による事業と連携して、『池袋駅コア・ゾーンガイドライン 2020』（令和 2 年 2 月策定）及び『池袋駅コア整備方針 2024』（令和 6 年 2 月策定）で求められている機能の整備を検討します。

7. 池袋駅西口駅前広場周辺整備事業

池袋駅西口駅前広場は、区画整理事業により整備されてから長い年月が経ち、施設の老朽や交通処理、バリアフリーなどに多くの課題を抱えていました。このような課題を改善するため、平成18年度より、池袋の玄関口としてふさわしい駅前広場として整備いたしました。

(1) 経緯

① ワークショップの開催

平成18年度に地元商店街の方々を中心にワークショップを開催し、「安心安全な池袋西口をめざして」をテーマにした計画素案をとりまとめました。

平成18年8月31日 西口駅前広場の問題点、課題の確認

平成18年10月18日 整備テーマの設定、景観の検討

平成18年12月14日 広場レイアウトの検討

平成19年2月7日 計画素案のとりまとめ

② 池袋駅西口駅前広場再生検討会の開催

平成19年度、町会、商店会、警察、関係企業等による「池袋駅西口駅前広場再生検討会」を開催し、さらに詳細な検討をおこなうとともに合意形成を図りました。

平成19年4月27日 計画素案の説明と課題の整理

平成19年7月19日 交通処理の検討

平成19年12月20日 実施計画案の検討

平成20年4月24日 実施計画のまとめ

③ ユニバーサルデザイン検証の実施

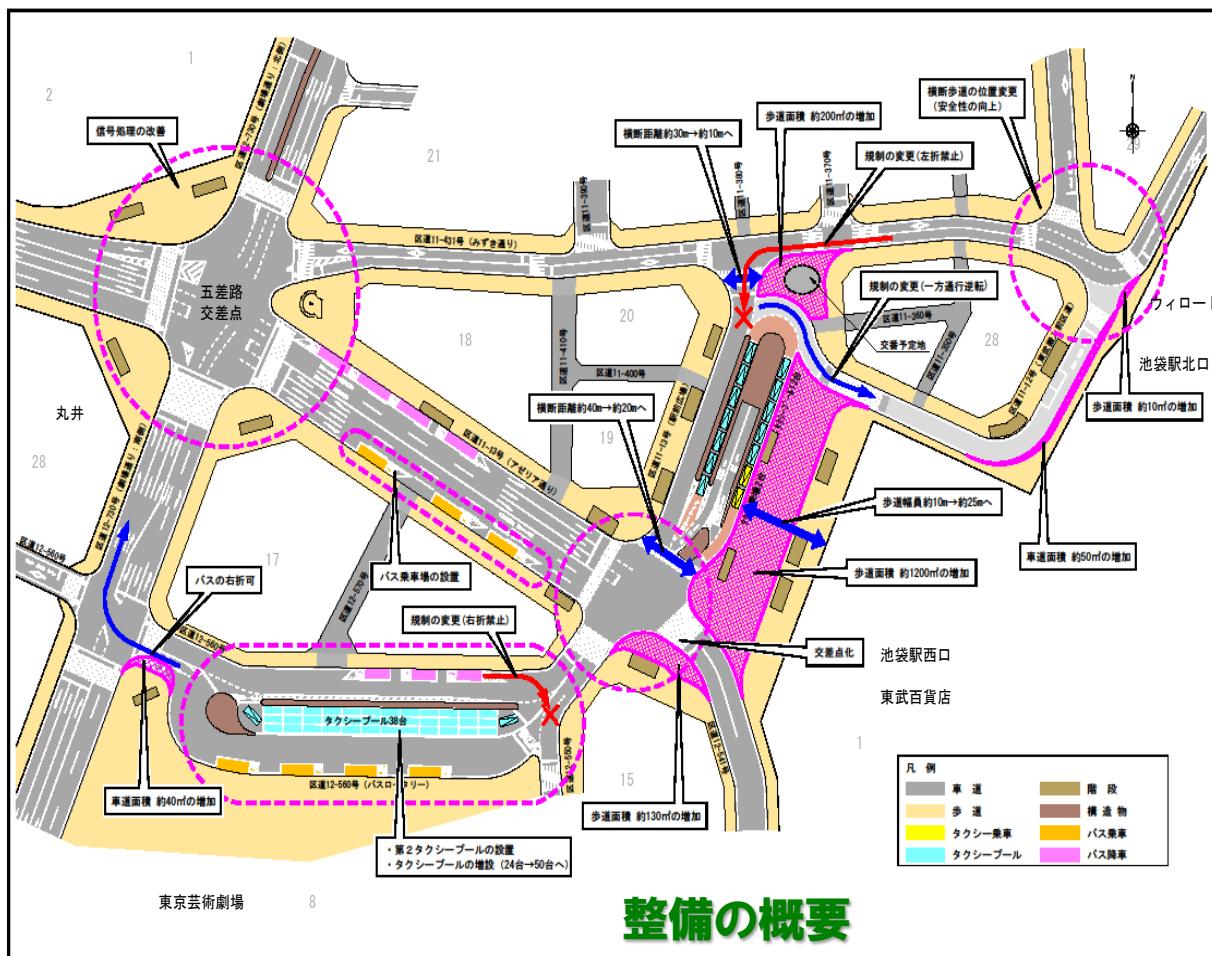
様々な立場の方々とユニバーサルデザインの視点から街歩きをおこない、誰にでも使いやすい駅前広場をめざして意見交換をおこないました。

平成19年10月31日 ユニバーサルデザインの視点から街歩き検証

(2) 事業概要

事業箇所	豊島区西池袋一丁目地内(西口駅前広場、西口バスロータリー、アゼリア通り等)	
対象面積	約12,000m ²	
事業概要	歩道面積の拡充 歩車道段差の解消ならびに、視覚障害者誘導用ブロックの増設 景観に合わせた緑化の推進 交通形態の変更	
事業経過	平成20年12月～平成22年12月	池袋駅西口駅前周辺整備工事
	平成22年11月～平成23年3月	池袋駅西口エレベーター新築工事

図表 2-5-9 駅前広場周辺の改修工事(平成 20 年 12 月～平成 23 年 2 月)



8. 庁舎跡地周辺街づくりの推進

池袋駅の東口は、サンシャインシティ方面に歩行者の流れが集中し、人々でにぎわう空間の広がりに課題のあるエリアです。区は、新庁舎整備を契機として、庁舎移転後の庁舎跡地の民間活用をはかり、新たな賑わい拠点を形成する計画です。また近年、庁舎跡地周辺では、民間による開発事業が活発化しており、こうした民間動向と相まって、庁舎跡地周辺のまちづくりとして展開することで、池袋副都心全域での魅力と回遊性を高めていくことが必要です。

このため、平成23年3月に地元商店会や町会の代表等で構成される「現庁舎周辺まちづくりを考える会」が発足し、地元大学の立教大学や帝京平成大学も加わり、まちづくりワークショップを行い、同会より提出された「まちづくり提言書」の趣旨を活かしつつ、まちの姿が大きく変わるこの機会をとらえ、賑わいにあふれ、人が回遊する魅力的なまちづくりの実現を図ってきました。

そして、新庁舎の整備に伴って計画されている庁舎跡地の活用及び新ホール整備を契機としたまちづくりを計画的、総合的に推進するため、平成26年3月に「現庁舎周辺まちづくりビジョン」（以下「まちづくりビジョン」）を策定しました。これは、都市計画マスターplan及び池袋副都心整備ガイドプランにもとづき、「現庁舎周辺まちづくりを考える会」からの提言も踏まえ、庁舎跡地周辺のまちづくりの方向性を示したもので、実現のためのアクションプログラムも定めています。今後、計画的で総合的なまちづくりを展開しながら池袋副都心の都市再生を推進させていきます。

(1) 庁舎跡地周辺まちづくりの方針

まちづくり活動の目標や公共施設整備の方針を次のとおり掲げています。

- 1 魅力的な文化にぎわい拠点をつくる
- 2 安全安心の拠点をつくる
- 3 2つの拠点をつなぎ新たな回遊性を生み出す
- 4 グリーンループをつくりスマートシティをめざす
- 5 にぎわいのまちづくりを広げる

(2) ビジョンの実現に向けたアクションプログラムの内容

具体的に実施する整備計画等の概要を示しています。

- 1 庁舎跡地の活用による文化にぎわい拠点の形成（⇒67頁参照）
- 2 新庁舎と南池袋公園整備による安全安心拠点の形成
- 3 南北区道（アーバンコリドー）の整備を中心とした回遊空間の形成
- 4 みどりのランドマーク（グリーン大通り）の再生
- 5 未来を見据えたまちづくり基盤の構築

(3) 対象地域

図表 2-5-10 現庁舎周辺まちづくりビジョン対象エリア



図表 2-5-11 南北区道の整備イメージ



図表 2-5-12 中池袋公園と庁舎跡地エリアの整備



(4) 経緯

- 平成 23 年 3 月 「現庁舎周辺まちづくりを考える会」発足
- 平成 23 年 6 月 まちづくりワークショップ 4 回開催
- ～同 24 年 2 月
- 平成 24 年 5 月 まちづくりワークショップ結果報告会
区長に「まちづくり提言書」提出
- 平成 24 年 9 月 現庁舎周辺まちづくり検討会議開催
- 平成 26 年 3 月 「現庁舎周辺まちづくりビジョン」策定
- 平成 26 年 7 月 「現庁舎周辺まちづくりビジョン連絡会」発足

9. 巣鴨地区街づくり

巣鴨地蔵通り周辺地区は、一般国道 17 号（白山通り）の拡幅に伴い、地蔵通り関連の道路や便益施設の整備などによる、商店街・観光地としての景観形成や魅力の向上などが課題となっていました。

このような中で、平成 14 年に巣鴨地区街づくり協議会から都議会及び区議会へ、まちづくり推進の請願がなされ、さらに平成 20 年 3 月には区長に同要望書が提出されるなど、地域の動向も活発化しており、「のんびり、ゆったりとした参拝と街歩きを楽しめる環境を形成する」ことなどが求められました。

そこで、平成 21 年度の基礎調査における現況把握と意向調査の分析に基づき、平成 22 年度は巣鴨地蔵通り及び沿道地区における公共施設整備を主とする整備の方向性を、平成 23 年度はその方向性を具体的に発展させるための検討を実施しました。

平成 24・25 年度は、巣鴨地蔵通りの整備を実現するために道路整備課を含めた地域住民との検討を行い、平成 26 年度から 28 年度の 3 か年で、高岩寺先から折戸通りまで、歩道の拡幅・カラー化の整備を行いました。平成 30 年度からは巣鴨地蔵通りを、幅員の狭い道路における無電柱化整備事業のモデル地区として、低コスト工法等の新たな手法を取り入れた整備を開始しました。また、工事を 3 つの工区に分け、一般国道 17 号（白山通り）先から高岩寺先までを I 工区とし、令和元年 6 月に工事着手し、令和 3 年 6 月に無電柱化工事が完了しました。

街づくりに関する主な取り組みは次のとおりです。

- 平成 11 年 2 月 巣鴨地区街づくり協議会(以下、街づくり協議会)発足
- 平成 14 年 12 月 街づくり協議会が、都議会へ「豊島区巣鴨二、三丁目の放射 9 号線拡幅に伴う道路整備とまちづくりに関する請願」、区議会へ「放射 9 号線（通称白山通り）拡幅に伴う道路整備とまちづくりについての請願」を提出
- 平成 17 年 9 月 巣鴨地蔵通り四丁目地区地区計画決定告示
- 平成 19 年 6 月 街づくり協議会、拠点整備について区へ申し入れ
- 平成 20 年 3 月 街づくり協議会が、区長へ「放射 9 号線（国道 17 号線）拡幅に伴う道路整備と街づくりに関する要望」を提出
- 平成 21 年 3 月 街づくり協議会が、区議会へ「巣鴨地蔵通り周辺地域の総合的なまちづくりの促進に関する請願」を提出
- 平成 22 年 3 月 巣鴨地区まちづくり計画策定の基礎調査
- 平成 23 年 3 月 巣鴨地区まちづくり方針の検討
- 平成 24 年 3 月 巣鴨地蔵通り周辺地区の整備構想検討
- 平成 24 年 12 月 区長へ要望書「巣鴨地蔵通りおよび周辺のまちづくり事業推進について」を提出
- 平成 25 年 1 月 巣鴨地蔵通り・路地整備に関する意見交換
- 平成 25 年 4 月、5 月、7 月 巣鴨地蔵通りバリアフリー整備に関する意見交換
- 平成 26 年 3 月 巣鴨地蔵通りバリアフリー整備計画説明会（一般区民向け整備計画説明）
- 平成 26 年 4 月、7 月 巣鴨地区街づくり協議会（連絡会）整備計画意見交換

- 平成 26 年 9 月 巣鴨地区街づくり協議会（総会）整備計画意見交換
- 平成 26 年 9 月 区長へ要望書「巣鴨地蔵通り入口周辺および関連するまちづくり事業の促進について」を提出
- 平成 27 年 3 月 巣鴨地区街づくり協議会（総会）工事経過及び計画説明
- 平成 27 年 12 月 巣鴨地区無電柱化プロジェクト推進協議会発足（第一回）意見交換
- 平成 28 年 3 月 巣鴨地区無電柱化プロジェクト推進協議会（第二回）意見交換
- 平成 29 年 10 月 巣鴨地区街づくり協議会が区長へ要望書「地蔵通り入口周辺の早期整備と中山道すがも地域の活性化対策について」を提出
- 平成 30 年 6 月 巣鴨地区街づくり協議会が都知事へ要望書「巣鴨地蔵通り無電柱化事業と警視庁巣鴨寮跡地利用等について」を提出
- 平成 31 年 4 月 巣鴨地蔵通り無電柱化事業 住民説明会
- 令和元年 6 月 巣鴨地蔵通り無電柱化工事（I 工区）に着手
- 令和 3 年 6 月 巣鴨地蔵通り無電柱化工事（I 工区）が竣工

10. 商店街の整備

地域の商店街は、街並みを特徴づけるとともに独特のにぎわいを形成しています。魅力ある商店街を整備することは、都市の活力を高め、多くの人々が楽しめるまちづくりを進めることになります。豊島区では、商店街の整備に関する要綱を定めて、魅力ある商店街づくりを推進しています。

(1) 施設整備事業

商店街の活性化及び安全で快適な魅力ある商店街づくりに寄与することを目的として、アーチ・放送設備・街路灯の設置等の施設整備事業に要する経費の一部を「豊島区商店街振興事業費補助金交付要綱」に基づき助成するものです。平成15年度から東京都の制度が拡充され、東京都商店街チャレンジ戦略支援事業（平成30年度より事業名称変更 ※旧事業名：東京都新・元気を出せ！商店街事業）と連携して補助するようになりました。

事業の実績(助成商店街数)は、次のとおりです。

図表 2-5-13 商店街施設整備事業実績

	道路の カラー舗装	街路灯	アーチ	アーケード	その他の 施設整備
昭和60年度～ 平成16年度の計	11	207	47	10	37
平成17年度	-	11	2	-	1
平成18年度	-	11	1	-	1
平成19年度	-	14	4	-	2
平成20年度	-	9	3	-	2
平成21年度	-	6	4	-	1
平成22年度	-	4	1	-	1
平成23年度	1	17	-	-	-
平成24年度	-	8	-	-	-
平成25年度	-	7	-	1	-
平成26年度	-	1	1	1	1
平成27年度	-	2	-	-	1
平成28年度	-	4	-	-	-
平成29年度	-	4	1	-	1
平成30年度	-	5	-	-	-
令和元年度	-	3	-	-	1
令和2年度	-	2	-	1	-
令和3年度	-	6	-	-	-
令和4年度	-	4	1	-	-
令和5年度	-	2	-	-	-
令和6年度	-	2	-	-	-
合計	12	329	65	13	49